

2024年度

第2回
学校関係者評価委員会報告書

於：令和7年2月
学校法人長野県理容美容学園
長野理容美容専門学校

第2回学校関係者評価委員会 報告書

日 時：令和7年2月26日（水） 10：30～13：30

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：（有）アルファ代表取締役 杉山 一真先生

（有）早川美容商事サロン企画マネージャー 早川 芳弘先生

松林校長・桐山事務局長・吉川事務主事・柏原教務主任

○松林校長より

第9次3ヶ年計画を基に自己評価として学校基準が連動していかなくてはならない。より良い学校になるため忌憚ないご意見を沢山出して頂きたい。

【議題】

1. 令和6年度第2回自己評価委員会報告

令和6年度報告として、教育理念の3項目・学校運営の3項目・教育活動の5項目・学修成果の4項目・学生支援6項目・教育環境の3項目・学生募集と受け入れ3項目・法令等遵守の2項目・社会貢献の2項目について、評価4について継続的に向上した部分の報告と今後の対策について細かく説明を行い、対策方法等について意見交換を行った。

評価4を、今まで以上により内容の濃いものにしていく必要がある。

各項目一つずつ細かく評価できていることが、次へと繋がっていくのでは。今後第三者評価という形式になった場合においても、大丈夫な体制が整っているのでは。

公平な評価を今後も継続していくべきである。

（基準1）総括 環境の整備と並行し教育内容の充実を計り、豊富な技術力と人間性豊かな指導者に成長できる。その結果各種資格試験の高合格率や各種コンテストにおいて常に全国上位を位置し続けている。また美容業界で幅広く活躍できる人材を多く輩出している

- ・自立し力強く活動していくための総合的な力を養うとともに、相手の立場に立った必要なコミュニケーション力を身に付けられるよう、「礼儀・挨拶・整理整頓」を重点目標として指導している。
- ・人と社会との繋がりを大切にし、職業人として生き抜く力を身に付けさせる。
- ・選択科目を時代のニーズに合った内容に見直し、一層即戦力に繋がるカリキュラム内容になった。
- ・自宅待機である感染した生徒には、履修同等の課題を明確にし、学びを止めることなく履修できている。

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・人と社会のつながりを大切にしていってほしい。学生は相手はどう思うかが薄い子が多いと感じる。
- 気づく力がつくときより良い。人を大事にすることが基本である。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・1番大切なことは、姿勢である。サロンにおいても重視する。何事も楽しんでやるのが大事である。
- ・歩き方を指導する際、素直な子はとても成長する。注意されてきてないため、指導の難しさは理解できる。
- ・サロン面接時にサロンワークを実施していることは良い。

今後の改善方策

- ・引き続き、礼儀・挨拶・整理整頓を軸に学生育成を行っていく。
- ・優しさが足りない学生が多い。他者評価は出来るが、自分の評価が出来ない。
- ・教育の難しさを感じている。あきらめずに根気よく、良い点を見つけてがんばっていききたい。

(基準2) **総括** 第8次5か年計画(令和2年～6年)を策定し、学校教育の充実、経営面の名良、的確な運営処理、危機理体制、施設設備の充実を行う。

- ・運営方針を広く周知するために、ホームページや学校パンフレットの見直しを行い、見る人の視点に立った内容にしていく。
- ・十分な教育を提供するためにも、学生の多様化に合わせ各学科、各学年に副担任が必要。
- ・本年度美容科2名、ビューティビジネス科1名の職員を採用。
- ・働き方改革により、充実した面もあるが指導面での圧迫が大きいのは軽減されていない。効率化を図ると共に現代に合った教育内容に対応できる人材の確保と育成は継続して行う。
- ・松本校より昼間課程のクラス担任と通信課程の担任として2名担当していただいた。
- ・学生管理システムの構築。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・広報としてのアプローチを見極めていってほしい。ぐいぐい攻める時代ではない。
→自由参加型のオープンキャンパスを開催しても良いのでは。

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・ビックハットで開催される産業フェアについては、参加しても良いのでは。

今後の改善方策

- ・新任教師3名採用した。人材は充足したが、お子さんの小さい方もいるので、難しい部分もある。もう1名必要である。引き続き、人材確保に力を入れていく。
- ・オープンキャンパス・進路ガイダンスのやり方を時代に合わせて内容を決めていきたい。

(基準3) **総括** 即戦力になる人材育成のために、カリキュラム内容や各教科の明確な目標達成と、成績評価を行う。教育活動において、学びの場を止めることの無いように、一人一人の生徒の状況に対応しながら進めていく。

- ・特化した技術だけでなく、基礎的知識や技術を習得することが必要である。学ぶ習慣のない生徒にとってもやる気が持続できるように指導していく。
- ・美容科授業に連携企業の現役美容師や各種スペシャリストを委託。1学年では引き続きカット授業に3店舗のサロン講師に授業をしていただいている。1店舗サロンの変更があったが引継ぎはスムーズに行われ、例年通り行われている。各課目サロン講師や各種スペシャリストに講師をしていただいた。カット&カラーの授業内容に沿って講師を検討していく。
- ・シャンプー・ヘッドスパ授業、パーマ授業は生徒の興味関心があるカリキュラムとなっている。
- ・資格試験、検定試験などの手合わせや、ジャッジ方法の確認を行っている。
- ・両校研修会で技術力向上の研修を行った。
- ・個人に合わせて学びたい内容のテーマを選び、オンデマンド研修を行った。
- ・指導力向上に向けて必要に応じて研究会を開き、非常勤講師との連絡を密に取り合い、適切に授業を行う。
- ・非常勤講師の高齢化が進んでおり、後任を検討していかなければいけない。
- ・資格取得に向け、放課後等を活用し個人指導を行い取得率向上に努めている

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・ヘムケア授業を導入したが、女性を多く扱う職業のため、効果があったと感じている。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・性別を含めてヘムケアセミナーは必要な事である。時代に合ったカリキュラムが求められている。
- ・人生の要となる時が絶対ある。家族を大事にすることと学生を大事にすることは同じである。

今後の改善方策 より良い学校にしていくため、教育活動に力を入れ、在校生満足度を上げていく。

(基準4) **総括**：入学から卒業まで、そして卒業後にはたくましく成長し続け、美容の技術者として活躍できる社会人の育成を目指す。

令和6年度就職状況

○美容科：89名

就職希望者 85名 県内：55名（67%） 県外：24名（30%） 未定：5名

（内他業種就職1名 まつエク：5名／ネイル：1名／メイク：1名）（その他4名 進学：1名／希望無し：3名）

○ビューティビジネス科：14名

就職希望者 13名 県内：8名（62%） 県外：8名（23%） 未定：2（エステ6名・ネイル5名）

- ・各種検定は昨年度より数%～数十%上昇。全体で11.4%の合格率の上昇。
- ・合格率の上昇は、資格取得を強く望む者が受験し、担当職員の熱心な指導によるものと思われる。資格取得を望む者が減少していることが課題である。

○令和6年度 美容師国家試験合格率 通信課程 14名受験 12名合格 89% 昼間課程 89名受験予定

○第16回全国理容美容学生技術大会全国大会出場

アップセット 1名 ネイルアート 1名 デッサン 2名

○日本エステティック協会主催 エステティックコンテスト全国大会

基本手技部門 銅賞（3位） 応用手技部門 金賞（1位） 入賞

○令和6年度休退学者（R7.2.20現在）

1年生 休学者：美容科 4名 BB科2名 退学者：美容科7名 BB科1名

2年生 休学者：美容科 1名 BB科1名 合計 16名

生活習慣が乱れている、社会性が培われていないなどの様子。保護者との関係性も影響している。病気療養の生徒は体調回復次第復学予定。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・サロン現場と学校のギャップがある。検定内容を検討する時期である。

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・資格取得の意味がイメージできていないのでは。サロン現場での必要性を合わせて説明していった方が良い。

今後の改善方策

- ・就職しない学生が4名。資格受験希望者も減少傾向である。カリキュラム内容をもっと楽しさや、やりがいを感じる内容を検討していきたい。
- ・1年次オリエンテーション、2年次就職説明にて、就職部より検定取得の意味合いを話していく。
- ・欠席するときに連絡のない学生が多い。期末テストの重要性を感じていない。

(基準5) **総括** 本校の特色は、夢と希望を持って将来美容師やエステティシャンを目指して入学してくる生徒の夢がかなえられるよう、最大限の指導と協力を惜しまない体制がある。

- ・いつでも相談できるよう体制は整えてあるが、あまり活用されていないのが現状。様々な相談がもっと気軽にできるよう LINE での相談を始めた。
- ・「給付型修学支援」 対象者 1 年生 11 名 2 学年 17 名
- ・コロナ感染症は 5 類に移行されたが、感染対策についての健康管理は継続して行っている。
- ・課外活動
青年会議所主催子供のお仕事体験に参加(生徒 4 名) ながの祇園祭参加(生徒 11 名)
- ・欠席が多い、授業に集中できないなどの問題のある生徒は、早めに保護者と連絡を取り合い、改善の方向へ行く様協力して取り組んでいる。
- ・様々な事情のある生徒が増え、より一層個々への対応が必要となってきた。
- ・HP などを利用して、広く卒業生へ支援していける準備をしていきたい。
- ・新 2 年生対象の就職活動説明会を実施した。(2 月 28 日)

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・学生主体の学校にしてほしい。環境づくりが難しいが、人を大切にすることを伝えてほしい。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・他人を気にしない子が多い。辞める理由として、環境もある。真面目にやりたい子が変わってしまう事は問題である。→月に 1 回ルールを守る日を設けてみたら。環境を創り上げることも必要。
- ・心地よい厳しさが必要であるが、自由を間違えてはいけな。お客様が不快になる人材を輩出してはいけな。実務実習に加えて、校内コンテストの際、全国から審査員を呼んでも刺激になるのでは。卒業生をもっと上手く活用すべきである。

今後の改善方策

- ・家庭と学校との協力体制が今まで以上に必要な時代である。
- ・校内コンテストの方法を今後検討していきたい。

(基準6) 電子黒板や Wi-Fi などを利用し、より分かりやすい授業を行えるように研究している。
シャンプー実習室、エステ実習室、テクニカルルームなど、水回りや電力の充実した教室を最大限生かして利用をしている。

- ・職員によるものと、外部へ依頼するものを選別して行った。
- ・引き続きオクレンジャーに登録。感染防止対策の他、防災についての連絡を行っている。

学校関係者評価委員コメント 早川委員より 問題ない。継続してほしい。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より 問題ない。継続してほしい。

(基準7) **総括** : 継続して学生募集に力を入れていく。

令和 7 年度学生募集については、多くの入学希望者を確保することができた。
ひとえに、伝統校としての信頼感に加え、学校の雰囲気良さ。先生たちが大切に学生たちを育成している点が選ばれた理由だと感じている。
今後はより一層県外流出防ぐ手立てと、時代に合った広報活動に力を入れていく。

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・学校支援サロンとして、本校パンフレットを配布することは可能である。→4 月以降実施していきたい。
- ・人材確保するために能力性も必要な時代。評価基準の整備が必要。休眠美容師も活用していくべき。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・学校の魅力を向上するには、先生を大事にすべきである。先行投資を見極めるべきである。
- ・人材確保が重要である。人を信頼できる人が経営者の在り方である。

今後の改善方法

- ・選ばれる学校として、継続していけるよう時代の流れに合った広報活動をしていく。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準9) 全職員が重点目標に対し理解を高めて、自己評価し問題解決に向かっている。

- ・定期的に自己評価委員会及び関係者委員会を実施し、定期的に自己評価を行い、随時公開していく。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準10)

美容科 社会福祉学を学ぶなかで、理美容介助士の資格取得し、体に障害のあるお客様に対応できる介助技術を学んでいる。どなたへもより良い対応ができるよう『准福祉理美容師』『福祉理美容師』の資格を取得できるカリキュラムとなっている。

ビューティビジネス科 上記同様に地域ボランティアとして学んだ技術を提供する来校実習を行っている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

2. 重点目標について (別紙1 参照)

(1) 令和6 年度重点目標実施報告

令和6 年度重点目標の実施状況の報告

重点目標① 【 教育活動 】

●生活習慣の基本 「元気な挨拶」「素直な心」「美しい環境」

接客業につく社会人になることを意識できている学生は伸びる。将来像がイメージできていないことから、生活習慣の乱れ、マナーに対する意識の低さが考えられる。美容は人の人生も変える素晴らしい仕事。今何が大切な、どんな行動をとることが最善か、自ら考え行動させたい。やりたくないこともやらないと仕事にならない。自分の商品価値を高めていくために一つ一つ根気よく指導していかなければならない。

●社会貢献 美容の社会的意義

美容の仕事の力を感じられる、外部との交流はなるべく参加させていきたいが、参加希望者が限られてきている。外部との交流を全員が行えるほど、すべての生徒が失礼のないよう行動できるとは限らない。そのためにも学校生活の中で思いやる気持ちを少しでも育んでいきたい。

重点目標② 【 教育環境の整備 】

●安心して学べる環境 カリキュラムの魅力発信

様々な検定が取得できることも本校の魅力であったが、検定の授業より美容の楽しい授業を求める傾向にある。今後も、最新の美容技術の情報を取り入れ、取得検定を含めて魅力あるカリキュラムを更新し続けていきたい。美容の技術者として成長したいという強い思いがあれば、魅力的な授業内容も生きてくるが、気持ちが入らず残念な時間も見受けられた。魅力的なカリキュラムを生かすためにも、人間力を高めていく必要がある。

●成功体験の積み重ね コンテスターの経験が、国家試験に挑んでいく過程で周りの生徒への影響力に助けられた。

失敗も大きな成長へのチャンス。良いところを見つけ、褒めて、直していききたいところ、伸ばしていききたいところを指摘し、信頼関係を築きながら指導する。見てもらっているという思いと、自ら気づき成果として結果が現れることを積み重ねていきたい。

●一人ひとりに寄り添う

寄り添うまでの時間の確保が難しいが、工夫し聴くこと、思いを伝えること、深く知ろうという姿勢が大事。クラスメイトのフォロー体制が取れるようクラス運営をし、お互いを尊重し高めあえる環境づくりをしていきたい。

重点目標③ 【 学生募集 】

●学生会など学生の自主的活動を促す

●卒業生・業界との連携

オープンキャンパス・オリエンテーションでの卒業生ライブや、カット・パーマ・カラー等でサロンの方々に教えに来て頂いている今の連携は続けていきたい。

- ・卒業生が講演やヘアショー（オープンキャンパス）など、来校してくれていることが、高校生だけでなく、在校生にも良い刺激となり、とてもありがたいと思います。
- ・実務実習と2回実施された就職ガイダンスでは刺激になった様子である。少しだけ2年後の自分像が確立されている生徒もいる。しかしガイダンスにおいて美容業界らしからぬ服装や素行が悪い方もおり生徒の見本としてふさわしくない方もおり残念に感じるシーンがあった。また、カット、カラーの外来のサロン様の授業においてクラス差が出てしまったのは残念だと感じた。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・重点目標に対して、考え・方策が変化していることが大事である。問題なく行われている。
- ・学生を1番に考え、よく見て対応していくことが必要である。
- ・話をよく聞く事が大事である。待つこと。パートナーを増やす事。

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・原因と課題の違いが大事である。たくさんミーティングをしていき、情報共有をすべきである。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。

（2）令和7年度重点目標（別紙2参照）

①接客の基本

「時間管理」「言葉遣い」「挨拶」「美しい環境」

②学ぶ姿勢

「体調管理」「素直な心」「感謝」

③職員の指導力強化

学校関係者評価委員コメント 早川委員より

- ・重点目標をきちんと考えられているので、目標達成に向けて頑張ってほしい。成長していくことを楽しみにしています。

学校関係者評価委員コメント 杉山委員より

- ・新しい時代・環境に合わせてアプローチ方法を変化させていく必要もあるのでは。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。

3. 次回予定

令和7年 第1回学校関係者評価委員会 令和7年7月24日（木）10:00～